

「えのくま日記」六十三号

平成二十九年二月 ～ 平成二十九年三月

「笑顔と涙の発表会」

末田 祥子（年長ほし組担任） 日記

えのくま幼稚園隣の記念館55で、発表会を行いました。衣装を身に着けた子どもたちは、いつも以上に笑顔がはじけ、お家の方に発表を見てもらう喜びや友だちと気持ちを合わせてやり遂げる達成感を味わうことができました。大勢のお客さんを前に、ステージに立つことが精一杯の子どももいましたが、音楽に合わせて微かに動かししている指先から、頑張りがひしひしと伝わってきました！みんなよく頑張りました！！

当日は、たくさんの方の拍手をありがとうございました。ボランティアのお母さん方、小発表会と発表会のお手伝い、ありがとうございました。

（二月十七日）



発表会に向けて、子どもたちの心に火がつき始めました。子どもたちと担任の先生が心を一つにして試行錯誤しながら取り組んでいます。秋の運動会とともに、えのくま幼稚園の子どもたちが発表会を経験して大きな自信や楽しさを、皆で共有することができます。

私は、「小発表会」の時期に、子どもたちの興味や競争心そして意欲を爆発的に引き出すため、子どもたちに「マル バツ 大マル」を意識して伝えていきます。教室や記念館のステージで練習している子どもたちの劇やダンス、和太鼓を見た後に、必ず褒めるようにしています。褒められた時の子どもたちの顔は輝きます。その後に、バツを指摘します。「声が小さいよ」「お客さんの方に顔が向いてないよ」「揃ってないよ」等々です。子どもたちは真剣に聞きます。「みんなで頑張って本番で大マルを取る」を目指します。

(二月二日)

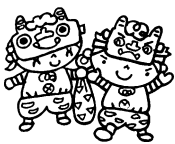
「小さな勇者達」

奈須 由美 (年中にし組保護者・広報部) 日記

二月三日の節分の日、広報部が豆まき集会にお邪魔しました。「鬼なんて怖くない!」あの鬼やつつけてやる!」とヤル気満々の子や、初めての集会を楽しみにしている・・・鬼の登場を知らない年少さん。鬼の絵に向って楽しそうに豆を投げていた笑顔が一転、突然現れた鬼を目にした途端、悲鳴をあげ逃げ回る子と、勇敢に立ち向かう子に二分しました。

逃げ回り隠れる子、先生にしがみつきの号泣する子、元気に鬼を追いかけまわす子、子どもそれぞれに色々な姿が見られましたが、年少さんを鬼から守る勇者(年長さん)の背中も、とても大きく格好良かったです。春は、みんな一つ進級です。寂しくもありますが、楽しきもいっぱいです。子どもと一緒に、私も学びながら共に成長していけたらと思います。えのくま幼稚園で、みんなの楽しい思い出を、広報誌「つばさ」に沢山残せるよう、頑張ろうと思えた一日でした。

(二月三日)



「今年の鬼さん、良く頑張った」

園長日記

節分の「豆まき集会」に全園児が参加しました。年少さんは手造りの鬼の帽子をかぶっていました。「鬼さんが出てきたら、年長さんは年少さんを守ってくれよ」と集会の中で伝えました。快晴の青空が広がり、子どもたちの笑顔には、とても余裕がありました。

鬼さんが登場すると、雰囲気が一変しました。例年、すぐに年長さんから撃退される鬼さん達ですが、今年は良く頑張りました。インフルエンザにかかって困っていた青鬼さんは、体調も回復し、元気に赤鬼さんと協力し奮戦しました。そのため、年少さんと年中さんの中に、怖がって泣く子が多くなりました。ところが、教室に戻った子どもたちに「鬼さんが出てきたけど、泣かなかった子」と問いかけると、ほとんどの子が「はーい」と手をあげました。

(二月三日)

「世界一には、まだまだ遠い」

ニセ舞台監督日記②

小発表会の二日間、記念館後ろに座り子どもたちのダンス、和太鼓、合唱、劇を見守った。発表会での子どもたちの楽しく、可愛らしいパフォーマンスを期待しているだけに、たびたび大声で「良いぞ!」「声が聞こえないぞ!」「マルだ!」「バツだ!」を連呼した。

小発表会のステージで初めて衣装を身に着けダンスや劇をする子どもたちは、緊張感や嬉しさを感ずながらもとても可愛いらしかった。日頃子どもたちを見慣れているニセ舞台監督がそう感じるくらいだから、保護者や祖父母の皆さんの思い入れはひとしおと推察する。今年、インフルエンザの直撃を受け、発表会に向けた完成度は、例年に比べると厳しい。しかし、子どもや先生達の心のスイッチは入っている。発表会の当日は、お越し頂いたお客様と子どもたち、そして先生達にとって「世界一のショー」になるよう、これから明るく、楽しく懸命に取り組んでいきたい。

(二月七日)

「あと何日寝たら発表会」

浅野 悦子（預かり保育担当） 延長保育日誌より

本番の発表会の日が近づくにつれ、子ども達も「あと何日寝たら発表会」と嬉しそうに話してくれます。毎日「今日は、こんな練習をしたんだよ」と細かく内容を教えてくれるので、私達もとても楽しみにしている程です。これから本番まで体調の変化など、しつかり見まもっていきたいと思います。

夕方の自由遊びは、とても寒かったので室内で遊びました。「ほし組」を紙コーナーにして思いっきり遊びました。

（二月九日）

「チューリップさんの移植手術」



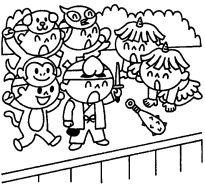
チューリップ病院長

この冬最大の寒波襲来で、子ども達が育てているチューリップの鉢の土にも雪がうっすら積もりました。

そんな寒さにもかかわらず、けなげにも多くの鉢に、緑の鬼のツノのような小さいチューリップの芽が出ています。しかし、各クラスの数鉢はいまだにまだ芽が出ていない状況です。本日、早朝、巡回して芽が出ていないチューリップさんの球根を検診しました。移植ゴテで球根を取り出すと、大概は病におかされ腐っていました。子どもが育てているチューリップさんなので、なんとか花を咲かせねばなりません。余備に花壇に植えて芽を出しているチューリップさんの移植手術を十五分で行い、六鉢の患者さんの治療を見事に無事済ませました。

（二月十日）

「ニセ舞台監督日記二話」



一話「本日は0点」

小発表会で、年長なぎさ組の劇「オズの魔法使い」を見て驚きました。他のクラスの発表が荒削りながら、まずまずの出来なのに対して、なぎさ組の劇は、凄まじく下手くそでした。インフルエンザの影響で、全員揃った練習が全くできていない状態で、子ども達はセリフを覚えておらず、自信のなさが顔付きや目つきに出ており、散々な状況で、えのくま幼稚園七年目の私にとって、これまで見たどんな劇よりもひどいものでした。

インフルエンザでお休みの菜摘先生の代わりに一度だけ、ニセ舞台監督としてなぎさ組を指導しましたが、それも少数の指導であったため、数人の名優を発掘できたものの全体の演技力アップには、まったく繋がりませんでした。「声が小さい」「何を言っているのか分からない」「棒読みだよ」「お客さんの方を向きなさい」・等々の指導をしましたが。子どもたちがとても可哀そうになりました。観終えた後の評価は0点を付けざるをえませんでした。

（二月七日）

二話「本日は七十一点」

嬉しかったのは、なぎさ組の子どもたちの心に火が付いたことです。極めて短期間（六日間）で劇とダンスと和太鼓と合唱を仕上げなければならぬのですが、菜摘先生と子どもたちが真剣に稽古したことと「えのくま幼稚園の魔法使い」Sちゃん先生の強烈な演技指導を受け、めきめき上達しました。二度目となる先週末のステージの評価は三十点、三度目は五十点、そして発表会二日前となる本日、二月十四日（チョコレートの日）は、ステージの全ての子の顔が輝いていました。自信を持って演技できるようになりました。思わず「上手いぞ」「上手になったぞ」と叫びました。劇が終わって、なぎさ組の子どもたちが直ぐにニセ舞台監督の周りに集まりました。「上手くなったぞ、今日は目標の七十点をこえて七十一点だ。明日は八十点、そして本番は百点を目指すぞ」と伝えると、子どもたちが笑顔で、嬉しそうに大きく頷きました。

（二月十四日）

「ママ、わくわくが止まらんやろ？」 数日前より毎日、私の期待値を上げてくれた娘でも、年少さんだし、ましてや「ゆき組（粒ぞろい）」さんだもの、十六日はゆるく構えて主人と観覧席へ。

ところが年長さんの太鼓が轟き始めると、会場が引き締まり、こちらも緊張気味に。そして「ゆき組の大きなカブ」、子ども達の懸命な演技に心を動かされました。読み聞かせや配膳給食でお邪魔していた時は、それはもう元氣いっぱい、何かしらハプニングが起きていました。それが堂々と胸を張り、一人ひとり役名と名前を言う姿は、とても誇らしげで少しウルツとしてしまいました。そして、最後のインタビューでの娘の「たのしかったです」と、真里奈先生のキレイな涙に、とうとう涙腺崩壊。

ゆき組さんで娘が発表会を迎えられ、また一つ素敵な思い出が増えました。娘よ！これからもえのくま幼稚園で、沢山の「わくわく」を体験してね。

（二月十六日）



「待ちに待った発表会」

鷹本 由香理（年少ひかり組保護者・広報委員） 日記

我が家の次男、初めての発表会。本番が楽しみで楽しみで、先生から内緒にと言われているのに何日も前から「こうするんで〜」と全て演じてくれました。

歌も踊りも大好きで、人一倍大きな声で歌い、元氣いっぱい踊るのですが、注目されると一転、別人のように恥ずかしがってしまう彼。かなり心配しましたが、本番は笑顔も出て楽しそうな姿を観る事が出来てホツとしました。長男が通っている頃から、先生方には色々な意味で有名だった次男（笑）。あの頃からは考えられない程、しつかりしてきましたよね？ ずっと可愛がっていただいたお蔭で、幼稚園が大好きになって、トレードマークのとびっきりの笑顔が毎日見れる事、本当に嬉しく、この発表会で改めて感じる事が出来ました。

（二月十七日）

「発表会 三話」

園長日記



☆一話「世界一の発表会」

記念館の園長席から、子ども達の楽しく可愛らしい真剣な発表や担任の熱血指導、そしてお越し頂いた皆様の熱く優しい、真剣な眼差しを見させていただきました。

先生達とは、子ども・教師・親が「三位一体」となって取り組み、素晴らしい発表会にしたいと話していましたが、そうした思いや願いが実現できた世界一の発表会だったと思います。和太鼓のバチを持つ子ども達の真剣な眼差し、笑顔でダンスする可愛らしい女の子、忍者等に変身した男の子のカッコイイ踊り、一生懸命に練習した成果を十分に発揮できた劇などに二日間、全身で触れることができ、改めて子ども達の凄さと可愛らしさ、そして成長した姿を感じることができました。インフルエンザに悩まされ、全体練習の時間が大きく制限される中で、子ども達が本当に良く頑張ってくれました。「世界一の発表会を見せてくれてありがとう」

☆二話「恵理奈先生の涙」

発表会初日、オープニングは年長つき組の和太鼓演奏でした。始めの言葉も演奏も立派に堂々とカッコよくできた子ども達の姿を見て、担任の恵理奈先生は、感極まって涙を流しました。これまでの練習の過程や、心を一つにして発表できた嬉しさや達成感などが、一気に脳裏をよぎったと思われまます。

それにしても、いつも優しいけれど気丈夫な恵理奈先生の涙を、初めて見る事ができました。「つき組のみんな、恵理奈先生を泣かせてくれてありがとう。よくやったぞ」

☆三話「なっちゃん募金」

発表会にお集りの皆様に、「なっちゃん募金」をお願いしました。可愛らしい女の子の「なっちゃん」は子ども達に大人気です。

その彼女が、高齢となり動物病院で高額な手術を受けなければならなくなり、急遽、皆様方に募金をお願いいたしました。先生達が用意してくれた「なっちゃん募金箱」には二日間で総額六万三千円を超えるご寄附をいただきました。ご協力をいただいた皆様方、本当にありがとうございます。ごさいました。「なっちゃん、良かったな、手術、頑張るんだぞ」

(二月十七日)

「年長さん集会」

園長日記

発表会の翌週の月曜日、天気が良ければ園庭に全園児が集まり、元気集会を開く予定でしたが、あいにくの悪天候で実施できませんでした。元気集会では、子ども達が本当に良く頑張った発表会の取り組みを振り返り「よく頑張ったぞ、大マルだ」と褒めてあげたい気持ち一杯でした。子ども達の嬉しそうな笑顔と歓声を期待していただけに、少し残念でした。褒めるのは、数日後の誕生会にとっておきます。

ただ、卒園が一気に近づいた年長さん達には、少しでも早く伝えたくて、三人の担任さんと相談し、急遽、「つき組」の教室で「年長さん集会」を開きました。きちんと体操座りで整列し、立派な態度で臨んでくれている年長さん達に、園長と担任さん達が一人ずつ感動のメッセージを伝えました。「発表会素晴らしかった、卒園式も皆で協力して良いものにしていこうよ！」

(二月二十日)



「待ちに待った誕生会」

田中 優子(年少ひかり組保護者) 日記

毎月の誕生会の後に、主役のお友達が大きくなったら、なりたいたいものを私に教えてくれる程、娘は誕生会が大好きです。そして、いよいよ主役の番が回ってきました。

当日の朝は、いつもは寝起きが悪く、なかなか起きないので、自ら起きてきて支度を始め、その張り切りように、とても驚きました。ステージの娘は、緊張していたのか終始固まっていたのですが、大好きな紀央先生に抱っこされた時だけ笑顔になりました。お友達にお祝いされたことがとても嬉しかったようで、もうすでに、来年の誕生会を指折り数えて楽しみにしています。園長先生が、チューリップを紹介して下さいましたが、我が家のベランダでも育てていて、何色に咲くか楽しみにしています。お友だちと沢山遊び、園の行事をたくさん経験して、チューリップの花言葉「思いやり」のある子に育ってくれたらと思います。

(二月二十三日)

「おんたの湯」

柚野 綾子(年中ことり組保護者) 日記

二度目のお誕生日会、去年は「ヒーロー」でしたが、「今年は何かな？」位の気持ちで順番を待ちました。

大きくなったら「おふろやさん！」と、大きな声で答えました。最近行った滑り台のある温泉がとても気に入っていたので納得。息子らしいと思えました。聞いた時には笑いましたが、みんなを温めて癒して欲しいなあ。親も一緒にお手伝いしたい将来の夢でした。

(二月二十三日)

「母がドキドキ発表会」

小野 久美子(年中わかば組保護者) 日記

昨年の発表会、娘はニコニコしながらもダンスを踊らず、まさかの棒立ち。年少さんだったので、これはこれで良い思い出になったと思っていました。そして今年の発表会の練習が始まりましたが、娘は家で全く踊りません。

私は、昨年の記憶が蘇りました。人前で踊る事が嫌いなのかな？と不安で、先生に「全く家で踊ってくれない」と相談すると、「クラスでは一番というくらい踊っていますよ」と言わ

れ、少し安心しました。家でも練習と思い You Tube でダンスの曲を流すと釘付けに。でも、踊ってはくれませんでした。そして当日、母は朝からドキドキ。娘の出番。幕が開き、ちゃんとスタンバイしている娘の姿は、とても可愛く、最後まで笑顔でノリノリのダンスを見せてくれました。夜は、家族で上映会。パパもノリノリな娘にびっくり。姉兄に褒められた娘は、とても嬉しそうでした。なにより母が嬉しくて、動画を見ずにはおれない毎日です。

(二月二十四日)

「卒園式まであと少し・・・」

宮本 美穂(年長つき組保護者) 日記

息子は甘えん坊で、年長さんになっても連休明け等、私と離れる時に「ママがいい」と泣く事がありました。四月からは小学生。重たいランドセルを背負って、長い道のりを歩いて行くのに本当に大丈夫かなと心配していました。

ところが三学期には、泣く姿を見ていません。自慢げに発表会の歌を聞かせてくれたり、太鼓を叩く姿を見せてくれたり、その日の出来事を以前より話してくれるようになり、成長を感じています。と同時に、幼稚園生活もあと少しだなあと寂しくもあります。卒園式の歌の練習では「寂しくて涙が出た」と話していました。まだまだ心配な息子だけど・みんなと過ごす残り少ない園生活を目いっぱい楽しんで欲しいなと思います。(二月二十七日)

「ラーメン跳び」



園長日記

二月最後の日は、快晴でぽかぽか陽気でした。園庭から子ども達の楽しそうな声が聞こえてきたので、園長室を出てみると、年中さん達が「体育教室」の時間で、跳び箱に挑戦中でした。

三段の跳び箱が三つ用意されており、跳び箱の上には黄色い縄跳び紐が置かれていました。しばらく子ども達が足を開脚して跳んでいる様子を眺めていると、面白い事に気付きました。黄色い縄跳び紐をラーメンの麺に見立てて、それぞれに「味噌ラーメン」「醤油ラーメン」「塩ラーメン」と名付けた跳び箱を用意していたのです。子ども達は、自分が一番食べたいラーメンの跳び箱にチャレンジしていました。「体育教室」の担当は藤澤先生ですが、とても楽しいアイデアだと思いました。子ども達が、苦手なはずの跳び箱を実に楽しそうに跳んでいる姿に見とれました。

(二月二十八日)

「最後の保育参観」

内藤 紀央(年少ひかり組担任) 日記

今年度最後の保育参観がありました。子どもたちに「最後の保育参観だから今までで一番カッコいい姿を見てもらおうね!」と話すと、「当たり前やん!」とやる気に満ちた言葉が返って来ました。

これまでの保育参観では、お母さんから離れることができなかつた子や、普段の積極的な姿が見られない子が数名いました。けれど、その心配とは裏腹に、子どもたちはお名前呼びから気合十分で普段以上の積極的な姿がありました。活動に入る時にも、説明をする私の顔を真剣に見て聞いてくれていました。何よりもお母さん方がいる事を忘れていたかのように、活動に夢中になってお友だちと楽しむことができました。短い時間の保育参観ではあったものの、一年間を通しての子どもたちの成長をたくさん感じることができた保育参観でした。保護者の皆様、多くの行事に参加して頂き、本当にありがとうございます。(三月一日)

「お別れ遠足」



松本 美香(年中ことり組担任) 日記

全園児で『お別れ遠足』に出掛けました。朝から遠足に行くことを楽しみにしていた子どもたちは、園服を着て、リュックを背負って・・・と、出掛ける準備も早かったです!

目的地である賀来公園まで、歩いて向かいました。年長さんは年少さんと手を繋いで行きました。年長さんが、目線を合わせて「行くよ！」と声を掛けたり、色んな事を教えてあげる姿を見て、とても微笑ましく思いました。賀来公園に着いてからは、みんなでダンスをしたり、人数集めゲームをして楽しく遊びました。その後は、子どもたちが楽しみにしていたお弁当の時間です！クラスごとに円を作り、みんなの顔を見て、いろんなお話をしながら、食べました。年長さんと一緒に遊べる時間・今のクラスで過ごす時間は、残りわずかですが、まだまだ色んな行事や活動もあるので、みんなで楽しい思い出をたくさん作っていきたいと思います。

(三月二日)

「天も泣いた お別れ遠足」

園長日記

今年度の園行事は、いろんなハプニングが続きました。過日の発表会はインフルエンザ、そして本日の「お別れ遠足」は、昼食時に生憎のパラパラの小雨となりました。幸い、本降りとはならなかったものの、風も吹いて肌寒さを感じました。

それでも、子どもたちは天真爛漫、ダンスやゲーム、リレー等に歓声を上げて楽しみました。年長さん達が、年少さんの手を引いて歩く姿は、とても微笑ましく、子ども達の成長を感じました。お母さん達の思いが一杯詰まったお弁当を美味しく食べている子ども達を横目で眺めながら、年長さんとのお別れが近づいたことを実感しました。「天も泣いた お別れ遠足」となりました。

(三月二日)

「輝くひな壇」



塚本 美紀 (年少ゆき組保護者) 日記

手形を取ってもらってから、もうすぐ自分の誕生日会があるか確認してきた娘。そこから名前と何になりたいかを言う練習が始まりました。

いつも私を見つけると駆けつけてくる娘。誕生日会もステージから降りてくるのではないかとヒヤヒヤの私。いつも落ち着きのない娘が、ステージに上がるとちゃんと座っていました。名前も夢も大きな声で言えました。ひな祭りの衣装に着替えてからも、すました感じで座っていました。私は気付きました。アイドルになりました。その個性を活かしてアイドルになって下さい。ひな祭りの衣装とセット、素晴らしくて感動しました。今日は、本当にありがとうございます。

(三月三日)

「チャレンジカード」

岩武 まどか (年中そら組担任) 日記

三月になり、少しずつ寒さが和らいできました。前までは、「外に遊びに行こうよ！」と誘っても「寒いから嫌だ」と言っていた子が、「遊びにいきまーす！」と元気に飛び出して行きます。

最近、チャレンジカードに取り組んでいて、自分から積極的にチャレンジする姿が見られます。特にそら組では、なわとびを頑張っている子が多く、「十回跳べたよ！」「後ろ跳びが出来たよ！」と少しずつ上達していくのが見ていてわかり、とても嬉しいです。チャレンジカードの表彰式までに色んなことにチャレンジして、沢山のスタンプを集めて欲しいと思います。

(三月三日)

「園生活最後のお誕生日会」



佐藤 淳子 (年長つき組保護者) 日記

娘は三月生まれです。このお誕生日会が来ると、今年度も終わるんだなあという思いで、この日を迎えました。園生活最後のお誕生日会、もうすぐ卒園です。三年間があつという間でした。

可愛い王冠を付けてもらい、「お名前なあに♪」とみんなで歌ってくれるこの歌が、私は可

愛くて大好きです。今日は、この歌が聞けるのも最後と思うと、寂しく感じました。お誕生日会では、「ひな祭り集会」も一緒にありました。誕生月の子ども達が衣装を身につけ、ひな壇に座りました。娘は、大役のお雛様をさせてもらいました。元々、恥ずかしがり屋で緊張からか終始、笑顔がありませんでしたが、本当はとても喜んでる娘の気持ち私には伝わりませんでした。素敵な思い出がまた一つ出来ました。ありがとございました。(三月二日)

「新聞の海」

松本 美香 (年中ことり組担任) 日記

先日、新聞を使ってゲーム遊びをしました。どちらのチームがたくさんの新聞を細くちぎれるか等の競争をして遊んだ後、教室の中にスズランテープを張りめぐらせ、新聞をつけて海の中に見立てて遊びました。その日は、教室の中を行き来するのが大変なくらい新聞だらけでしたが、新聞の上を通ってみたり、下を潜ってみたりと、とても楽しそうに遊ぶ子どもたちの姿を見る事ができました。今は、新聞を上の方に貼り、折り紙で作った魚たちを飾っています。これから、まだまだ遊びが広がっていく事を期待しています。(三月三日)



「パパ先生、ファイナルメッセージ」

今年度最後となる「パパ先生と遊ぼう」には、二十三名のパパ先生にお越し頂きました。ポカポカ天気にも恵まれて、子ども達とパパ先生達との楽しい触れ合い、交流が行われました。園庭にずらりと並んだお父さん達は、みんな若々しく、カッコいいパパ先生達でした。パパ先生からのメッセージを紹介いたします。(三月四日)

☆鷹本 真也(年少ひかり組保護者)

今年度最後の「パパ先生と遊ぼう」に参加させて頂きました。天気も良くて、外で遊ぶにはとても良い日でした。転がしドッジボールと綱引きをしました。多くの子ども達から、たくさんの元気をもらいました。綱引きは、いずれも子ども達が勝ち、子ども達の力強さを感じました。来年度以降も参加させて頂きたいと思っています。

☆畑辺 友之(年少はな組保護者)

初めて参加させて頂きました。日常から離れて、子ども達と触れ合う時間は、楽しくて、あつという間でした。エビカニクス体操では、先生と一緒に無邪気に歌って踊る子ども達の姿に癒されました。また、そのそばで頑張って踊っているパパ先生達の姿に、元気と前向きなエネルギーをもらいました。皆さんと一緒に楽しく育児に参加できる機会ってなかなか無いですし、素晴らしいと思います。

☆谷本 訓昭(年中ことり組保護者)

久しぶりに「パパ先生」に参加させて頂きました。転がしドッジボールと綱引きでしたが、大変楽しい時間を過ごすことができました。綱引きでは、年がいもなく頑張り過ぎた為、腰痛を患うはめに・次回も参加を希望しますが「ほどほど」を心掛けます。

☆前園 隆之(年長ほし組保護者)

今回で二回目の参加となりましたが、とても楽しく過ごすことができました。特に最後の綱引きは、年長さんの力があまりに強くてびっくりしました。息子は年長で、今回で最後の参加となりましたが、幼稚園の方々には、こういった交流の場を今後も続けていって欲しいと思います。

☆高浦 健伸(年長ほし組保護者)

今回、年長である娘の最後の「パパ先生」と聞いて、恥ずかしながら初めて参加させて頂きました。いつも来ないパパが幼稚園に来てくれるのが、娘は余程嬉しいらしく、

何日も前から「たのしみだなあ、早く土曜日にならないかな」と言っている姿を見て、「無理やりにでも来てやればよかったな」と反省しました。当日は、大変有意義な時間となりました。本当にありがとうございます。

☆長友 裕助パパ先生（年長ほし組保護者）

えのくま幼稚園には長男、次男が六年間お世話になつていますが、これまで一度もパパ先生をしたことがなかった。息子と楽しい思い出が出来ればと思い参加することにした。ドッジボールや綱引き等をしている息子の姿を見て、成長を感じた。また園児の生き生きとしている姿や笑顔を見て、幸せな気持ちになった。パパ先生に参加して良かった。多くのお父さんに、この素晴らしい体験を是非、経験して欲しいと思う。

☆仲村 慎司パパ先生（年長なぎさ組保護者）

早いもので息子は卒園を迎えようとしています。最後のパパ先生に参加し、元氣いっぱいな子ども達と楽しい時間を過ごすことができました。思い返すと、沢山の思い出とともに、こどもたちの成長に日々驚く毎日でした。えのくま幼稚園での三年間を糧に、小学校でも親子ともども、活発に頑張っていきたいと思います。

☆渡邊 賢明パパ先生（年長なぎさ組保護者）

年長の次男にとっては、今回が最後のパパ先生でした。一週間くらい前から、すごく楽しみにしていたようで「パパ先生まであと何日」とカウントダウンしていました。三年間在籍させていただいたので、顔なじみの子どもも多く、皆の笑顔が見られたのは、とても良かったです。「パパ先生」は、とても思い出に残る行事です。これからも実施していただきたいです。

「はな組読み聞かせスペシャル」

武生 香里（年少はな組担任） 日記

三月六日（月）、読み聞かせがありました。普段は、一人お母さんが来てくれて、読み聞かせを行ってくれますが、この日は、クラスだけでの読み聞かせが最後ということもあり、クラスのYくん、Nくんのお母さんが二人来てくれました。

子どもたちに向けて、手作りの紙芝居『はなぐみさんのいちねんかん』を読み聞かせしてくれました。子どもたちは、友だちと思いい出を振り返ったり、口々に反応したりして楽しむ姿がありました。終わった後には、お母さん方から、その手作りの紙芝居をクラスにプレゼントしてもらいました。お母さん方が帰った後、「本屋さんに行っても、どこにも売ってない、ここにしかない紙芝居なんだよ」という話をする、嬉しそうにじーっと紙芝居を眺めている姿がありました。お母さん方の気持ちのいっぱいこもったこの紙芝居を、残りの日々子どもたちと何度も読んでいきたいと思いました。

（三月六日）

「長生きしてね。なっちゃん②」



波多野 幸子教頭・副園長日記

昨年九月のえのくま日記で、なっちゃんの後ろ脚に麻痺が起きたことをお伝えして半年が過ぎました。その間、ゲージを覗いて「なっちゃん」と、子どもたちからたくさん優しい声かけや、お家の方が持たせてくれたお野菜に元気を貰い、なっちゃんは生き続けています。先日の発表会では「なっちゃん募金」に、多くの皆様から温かいお気持ちを頂きました。心から感謝しています。脚の麻痺で、お腹の床ずれが膿んで大きな腫物ができた上に、最近左前足にも麻痺がきてしまいました。バランスが取れずゲージにもたれて体を支えている状態ですが、相変わらずの食欲には笑えます。せめて七日の手術で腫物が治りますように…それだけが願いです。お家を恋しがって泣く年少さんの涙をピタリと止める魔法の技を持つているなっちゃん、四月には大活躍してもらわなければなりません。なっちゃんを撫でるたび、小さな心臓が力強く打っていることを感じながら、暖かくて賑やかな春を待ちたいと思います。

（三月六日）

「もうすぐ卒園」

末田 祥子（年長ほし組担任） 日記

あと数日で卒園していく年長さん。一緒に遊んだり給食を食べたりするのも数回しかないと思うと寂しくてたまりません。

そんな思いの中、子どもたちに今の気持ちを聞いてみました。「なんだか寂しいけど、がんばってる会に来たら会えるよ！」その言葉を聞いて、今から再会の日が楽しみになりました。「早く小学校に行きたい！」という子もいました。就学への期待が高まって良い調子！と思う反面、あまりにもさっぱりした雰囲気は、「寂しくないのー？？」とも思っていました。勝手なもので、子どもたちも私と同じ気持ちだったらいいのにと無意識のうちに思っていたようです。

一緒に過ごせる残りの日々を大事にし、たくさん思い出を作りたいと思います。

（三月六日）



「大好きなお兄ちゃん」

庄 恵理奈（年長つき組担任） 日記

お別れ会でのことです。年少、年中とお別れ会で「寂しい」と涙を流していた感情豊かでピュアなK君。お別れ会で歌う卒園式の歌の練習でも号泣する姿が見られていました。さあ、今年のお別れ会はどうかな・・・と様子を伺っていました。そして、お別れの言葉と歌をうたう順番がやってきました。

あれ？涙出てないぞ？むしろ堂々といい顔で歌ってる！ところが今年は、それを見ていた弟のK君が泣いていました。なんだか一、二年前のK君を見ているような感じがしました。弟のK君は「もう一緒にK（兄）と遊べなくなるの悲しい」と言っていました。兄弟でもそんな風に思うんだなあど心があつたかくなりました。一方、兄K君は「え、K（弟）泣きよつたの全然分らんかった」とあつげらんかんとしていました。さっそく弟K君は「明日からずーっとK（兄）と遊ぶもんね！」とはりきっていました。兄弟での家とはまた違った残りの幼稚園生活楽しめたらいいなと思います。

（三月六日）

「あと少し・・・」

高橋 かおる（年中わかば組担任） 日記

発表会も終わり、少しゆっくりとした中で毎日をお過ごしています。わかば組で過ごすのは『あと〇日』と、カウントダウンをしているのですが、子どもたちなりに「なんかさみしい」「でも、もうすぐ年長！」と色々な感情を持っているようです。

そんな中、ある日の自由遊びの時に聞こえてきた会話です。

「もうすぐ年長さんになるなあ。何組になるんかなあ？」

「私、なぎさ組になりたい。帽子かわいいもん。」

「わたしも！一緒になるといいなあ・・・」

四月から一つ大きくなること、今のクラスではなく新しいクラスになること、自分の周りの環境が少し変わっていくことに、心の準備をしているのだなあと感じました。

三月は、年長さんとお別れもありさみしい気持ちもありますが、四月の新しい出会いに期待しながらお過ごしてほしいと思います。

（三月七日）

「楽しいなマラソン大会」

梶間 菜摘（年長なぎさ組担任） 日記

お昼ご飯を食べた後、マラソン大会に向けて練習をしていたある日、マラソンが得意のSちゃんがスタート直前に泣き出しました。

理由を聞いてみると、「はん食べてすぐ走ったらきつくなるけん真剣走れん」と。なるほど、とも思いましたが、それが理由で「お友だちに負けると思ったの？」と聞くと、「一番じゃないとだめやもん」と、小さな声で返してくれました。ずっと一番で頑張っていたSち

やん。どうしても負けたくない気持ちもよくわかりましたが、近くで聞いていたRちゃんから「きついで頑張らんとみんな（練習した分）もつと速くなるよ」と、言われ一瞬ドキッとした顔で「わかっちゃよんし！」とSちゃん。それから、毎日「先生今日マラソンは？」と、以前にもまして張り切るSちゃん。それに負けじと集まってくる子どもたちの姿を見てみると、本番がとても楽しみみです。
(三月七日)

「にじ組さんの成長」



小野 智美（年中にじ組担任） 日記

先日のお別れ遠足では、子どもたちは楽しそうにお友だちと話しながら公園まで歩いて行きました。それを見て、にじ組がスタートした頃の「春みつけ」の小遠足を思い返しました。お友だちの手を離したり、急に立ち止まったりと、自分のしたいことが先だっていた去年の四月から、お友だちと「タンポポがあるかな？おやつ楽しみだね」と話をしている姿や、ふれあい遊びの時の年少さんに優しく自己紹介をする姿に成長を感じました。園に戻ってから「おやつパーティー」をしながら沢山の思い出を振り返りました。「どこに行ったのが楽しかった？」と聞くと、「うみたまご」、ミカン狩り」など様々な答えが返ってきます。沢山の行事を子どもたちと味わえたことをすごく嬉しく思います。もうすぐ年長さんです。少し寂しさはありますが、最後まで楽しく笑顔いっぱいに過ごしていきたいと思えます。(三月八日)

「年中を終えて」

足達 亮子（年中わかば組保護者） 日記

梅の花が色づき、桜のつぼみが気になり始める三月は、息子の誕生日。最も成長を感じる季節でもあります。

先日のお誕生会で頂いたカードでは、ついに身長が一〇〇センチ！三桁いった！大きくなったなあと主人と二人で目を細めたところです。また得意のダンスを惜しげもなく披露した発表会では、より一層の自信があふれていたように思います。一方で、園生活に慣れ自分の気持ちを伝えることの大切さを学んだ一年でもありました。「これ貸して」「一緒に遊ぼう」「いいよ」はもちろん、「しないで」「僕はしたくないよ」「ごめんね」など、お友達との関わりが息子を成長させてくれました。「太鼓がしたい！お泊り楽しみ！」そう話す息子の目の輝きを温かく見守っていこうと思えます。
(三月八日)

「今日は〇〇回跳べたよ！」



小川 真里奈（年少ゆき組担任） 日記

なわとび大会が終わった後も、毎日なわとびの練習を続けていたAちゃん。練習を始めてすぐの頃は、縄を回して一回ずつジャンプしながら跳んでいました。リズムをつかんでくると止まらずに跳び続けることが出来るようになりました。数を数えながら、Aちゃんが練習している様子を、まわりで見えていたお友だちから「すごっ、Aちゃん上手やね。」という言葉が聞かれる場面がありました。お友だちからの言葉に少し照れながらも嬉しそうにするAちゃんと、「よし、私もするー！」と言ってなわとびの練習を始める子ども達。しばらくして、また様子を見に行くと、「ごうやっつて、ごうで跳んだらいいよ。」と跳び方を教えてあげながら一緒に練習をしていました。

今後、かっこいい姿を認めて相手に伝えたり、褒められたことでやる気につながったり、お互いに友だち同士で高め合い、色んなことにチャレンジして欲しいと思います。

(三月八日)

「大盛り上がりのマラソン大会」

園長日記

五年ほど前、初めてマラソン大会を始めた頃は、応援に来られる保護者はまばらでした。ところが年々、保護者やお爺ちゃん、お婆ちゃんの応援が多くなり、今年は過去最多となる

二百七十名を超す方々にお越し頂き、子どもたちの応援をしていただきました。

子どもたちの走りは色々です、先頭争いをして頑張る子、ママを見つけて手を振りながら走る子、転んで泣きながら走る子、マイペースで走る子、狙っていたトップになれず悔し涙を浮かべて走る子など実に様々です。年長さんは、走り終わると多くの子が、その場に座り込みました。トラック四周、六〇〇メートルの競争のきつさを実感したようです。そうした子どもたちの真剣で可愛らしいチャレンジが、マラソン大会を盛り上げています。

(三月九日)

「先生、頑張つて！」



小野 智美 (年中にじ組担任) 日記

昨年は雨天中止だったため、年中さんにとって初めてのマラソン大会となりました。にじ組の子どもたちは、「早くマラソン大会来ないかな」と楽しみにしていました。

当日、私は男の子の先頭を走ることになりました。実は私は、子どもの頃から走るのが大の苦手で、マラソン大会では常に後ろのほうでした。その事は隠して、子どもたちには「最後まで走りきる事が大切なんだよ」と伝えてきました。スタートすると、そら組の男の子の帽子が迫ってきました。追い抜かれると思ったその時、保護者の方からの「先生頑張つて！」と言う声が聞こえてきました。また、にじ組の女の子の「先生頑張つて」の声も聞こえ、最後まで走りきる事が出来ました。「最後まで走りきる」を身をもって実感できた一日となりました。終わった後に、教室で頂いた温かいお味噌汁の味はきつと忘れられないと思います。

(三月九日)

「年少さんのマラソン大会」

小川 真里奈 (年少ゆき組担任) 日記

昨年は、残念ながら雨で中止となりましたが、今年は絶好の日和で、無事にマラソン大会を開催することができました。

今年は少ない練習期間の中で、子どもたち一人ひとりが目標を持ち、自分のペースで走ってきましたが、最初の頃は、すぐに疲れ、息が上がっていました。しかし回数を重ねることで、自分のペースをつかみ、完走できるようになりました。当日は、転んでしまう場面もありましたが、あきらめずに最後まで走る姿に子どもたちの一年間の成長を感じました。また、寒い中、多くの保護者の方に応援にお越し頂き、温かい拍手や声援を頂いたことで、子どもたちも全力を出して走れました。終わった後は、さっちゃん先生の作ってくれたお味噌汁を頂き、冷えた体を温めることができました。また、一人ずつごほうびのメダルをもらい、最後まで走りきった達成感や満足感をお友だちと一緒に味わうことができました。(三月九日)

「なっちゃん天国に行きました」



波多野 幸子 教頭・副園長日記

本日の早朝、えのくま幼稚園で長年飼ってきた、うさぎの「なっちゃん」が亡くなりました。三月七日に、お腹の腫物を取る手術を受け、回復を待っていたところでした。子どもたちも、ここ数日、じっとしているなっちゃんを何度も覗いて心配していました。

しかし、昨日から急激に元気がなくなり、今日も診察を受けることになっていたので、今朝、先生たちに抱っこされて天国に行きました。なっちゃんの最後を職員で見送ることができたことは、せめてもの幸いでした。

六年前、幼稚園に放置されてやってきた「なっちゃん」ですが、子どもたちに愛され、私たちにも愛をいっぱいくれました。今日は、ほんの少しの時間でしたが「おわかれの集会」を持ちました。箱の中でお花に囲まれたなっちゃんに、さようならをして最後の姿も見せました。小さな命の温もりと、大切さが少しでも心に残ってくれたらと思います。

先日の発表会では、「なっちゃん募金」に保護者の皆様から温かいお気持ちをたくさんいただき、動物病院にも何度も通って治療を受けることができました。本当に感謝しています。ありがとうございました。

(三月十日)